

2022年4月1日

暮楽里（kurari）～水編～の発刊

農山漁村地域には豊富な資源を活かし、守りながら「暮」らしを「楽」しむ「里」がたくさんあります。この地域資源にスポットを当て、「知って」「感じて」「味わって」をコンセプトとしたおでかけガイドブック『暮楽里（kurari）okitama』を発刊し、新たな情報発信を始めました。

【置賜農村計画課：鹿野】



2022年4月7日

集落営農ビジョンづくりワークショップ（川西町大塚北部地区）



川西町大塚北部地区では、担い手への農地集積や農業の高付加価値化を目指し、ほ場整備事業の着手に向けた調査計画が進められています。

ほ場整備事業完了後の地区の将来像を見据えた「集落営農ビジョン」を策定するため、4月にワークショップの手法を用いた話し合いが行われました。地区の担い手を中心となった話し合いは、地域が抱える課題について意見を出し合い、その解決に向けた具体的な提案について検討しました。

今後も、整備されたほ場でどのような営農を展開していくかなど、熱心な話し合いが展開されていきます。

【置賜農村計画課：丹野】

減水深調査（長井市寺泉地区ほか）



減水深調査とは、かんがい期間において水田に流入した水が地面に浸透したり、蒸発したりして、1日にどれだけの水量が減少するのかを計測する調査です。

水田に設置した水位計から一定時間ごと（今回は1時間）に水位の動きを観測することで減水深を求めます。この減水深調査と代かき期に行う代かき用水量調査により、その水田に必要な用水量を把握することができます。

水田の用水量を把握することによって、ほ場整備等における計画単位用水量を決定することになるので、この減水深調査は、用水計画を作るうえで重要な調査なのです。

【置賜農村計画課：寺舘】

2022年5月11日～16日

地すべり防止区域点検（南陽市小滝地区）



昭和49年に地すべり防止区域指定となった小滝地区は、昭和52年に対策工事が完了しています。現在では対策の効果もあり地すべりは落ち着いているものの、地震や天候の影響により山はその形を変えるため、日常の点検は欠かせません。

そのため、毎年雪どけ後に、巡視員、市、総合支庁の各担当者により地域の安全を図るため、小滝地区を含めた置賜管内の地すべり防止区域4地区すべてにおいて施設点検を行っています。

【置賜農村計画課：田中】

2022年7月11日

田んぼダム貯留機能効果実証（川西町尾長島）



田んぼダム実施ほ場にて、その効果を検証するための現地説明会を行いました。水尻柵に排水制御板を設置したほ場と、設置しないほ場それぞれに水位計を設置し、排水量の違いを観測することで、その効果を検証するものです。

《田んぼダムとは…》

集中豪雨を一時的に水田に貯めこみ、河川に流れ出す水の量を抑え、下流域での冠水被害の軽減を図るもの。

【置賜農村計画課：那須野】

2022年6月29日

生き物調査（川西町中大塚地区・大塚北部地区）



田んぼや水路の整備を行うには、自然との共生を踏まえた環境に配慮した計画が必要です。現在、農地整備事業を計画中の川西町中大塚地区、大塚北部地区では、よりよい計画とするため、周辺に生息している生き物調査を行いました。

踏査には、白川土地改良区や川西町、地元関係者が参加したほか、昆虫や魚類の専門家を招き、捕まえた生き物が希少種や絶滅危惧種ではないかの判別をしました。

今後は調査結果をもとに生物と共生できる計画を策定していきます。

【置賜農村計画課：沼田】

ため池で遊ばないで！！



安全ネット等の脱出設備のないため池に落ちてしまうと、はい上がるのは困難です。コンクリートのブロック等で覆われている堤体は、藻や苔などにより滑りやすくなっています。釣りなどで遊んでいる状況での事故が多くなっていますので、ため池周辺では遊ばないようにしてください。

また、農業用水路でも同様の事故が毎年発生しています。水量が少ない小さな水路でも、溺れることがあります。ため池同様に、水路周辺でも遊ばないようにし、転落事故に気をつけてください。

【置賜農村計画課：田中】

2022年7月26日

(続) ため池で遊ばないで！！



管理者ご協力のもと注意喚起看板のない農業用ため池に、新しい看板が設置されました。

特に子どもたちは、夏休みシーズンになり人手の少ない場所で遊ぶこともあるかと思いますが、看板の有無にかかわらずため池周辺には近づかないように注意喚起をお願いします。

【置賜農村計画課：田中】